



BlueBay
Asset Management

2017年1月18日

エマージング市場はまだ様子見



デビッド・ダウセット

パートナー

エマージング債チーム(コ・ヘッド、国債)

シニア・ポートフォリオ・マネジャー

トランプ新大統領の政策方針への憶測が金融市場を引き続き左右しています

投資家は、トランプ氏が米大統領選挙に勝利して以降初めてとなる記者会見に期待を寄せました。しかし、実際は新政権において優先する政策については何も明らかにされず、そのため米ドル、米国10年債、S&P500といった米国資産は一週間で見るとあまり動きがありませんでした。

まだ様子見の状態が続いており、トランプ氏の就任式とその後の一週間で何が起こるかを見守っています。最初の政策発表は米国の経済成長にとって友好的なものになると引き続き考えており、米ドル及び米国債利回りは月末にかけて上昇すると予想しています。

エマージング市場で最も注目が集まっているのはメキシコとトルコです。両国の共通点は、年初来通貨が大きく下落していることです。

エマージング市場で最も注目が集まっているのはメキシコとトルコです。

メキシコは米国の国境税とトランプ氏が米国企業に対して本国に拠点を戻すように促す発言をしていることを受けて、懸念が高まっていることで苦戦しました。メキシコ中央銀行は、通貨を安定させるために20億米ドルを使っており、さらに信用力及び通貨が弱含むことを懸念しています。メキシコの政策対応は伝統的な手法になる可能性が高いですが、すでに経済状況が悪化している中で、更なる金融引き締めを行うこととなります。2017年の経済成長率は1.5%を想定していますが、双子の赤字も3%に達すると考えており、あまり前向きな見通しは持てません。

トルコは、多くの点で違う問題を抱えています。問題を解決するのはより簡単ではあるものの、政治的な意思がかなり弱いと考えています。トルコ・リラは米ドルに対して10月末から20%下落しているにもかかわらず、中央銀行は利上げを行うことを躊躇しています。その理由は、エルドアン大統領がそうさせない圧力をかけているからと思われる。先週から、通貨の下落ペースと下落幅に関しての警告が中央銀行から発せられ始めているとみています。長らく待たれた利上げは近づいているかもしれませんが、市場を安定させるためには200bpsの利上げが必要であると考えています。

このほかに、広範な市場で方向性のある動きは見られなかったことから、新規発行市場を投資機会として活用することに注力しました。来週は、アルゼンチンが50億米ドルの起債を行うことが予定されており、投資機会として活用していきたいと考えています。

年明けから比較的静かな市場となっており、より大きなリスク・イベントは今月後半にやってくると考えています。

ブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド
関東財務局長(金商)第1029号
加入協会:一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は受領者への情報提供のみを目的としており、特定の運用商品やサービスの提供、勧誘、推奨を目的としたものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、当社がその正確性、完全性、妥当性を保証するものではありません。記載された内容は、資料作成時点(2017年1月20日)のものであり、今後予告なく変更される可能性があります。過去の実績及びシミュレーション結果は、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。なお、当社による書面による事前の許可なく、本資料およびその一部を複製・転用・ならびに配布することはご遠慮下さい。当社と金融商品取引契約の締結に至る場合には、別途「契約締結前交付書面」等をお渡します。当該書面等の内容を十分にお読みいただき、必要に応じて専門家にご相談の上、お客様ご自身のご判断でなさるようお願いいたします。

以上